

Title	[海]陸境界帯の名稱に就いて
Author(s)	T・U生
Citation	地球 (1925), 3(1): 206-208
Issue Date	1925-01-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/182799">http://hdl.handle.net/2433/182799</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

## 海陸境界地帯の名稱に就いて

T . U 生

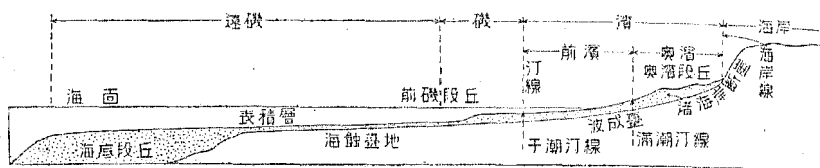
一、緒言、陸と海と相接する部分には、海岸、濱、渚、磯其他種々の名稱があるが、其の範圍は明瞭でない様に思はれる。例へば「海岸」といつても其の範圍はどれだけを言ふか一寸分り兼ねる。濱、渚等に於ても同様である。かくの如く、意味の漠然たるだけ人によつて解釋が異つてゐて、其等の記載に不便を感じる場合が少くない。それで其の區分と名稱とを次の様なことにしたらどうかと考へる。

二、四大區分、陸と海と相接する附近は浸蝕と堆積とによつて特有なる形をあらはすのであるから、これによつて適確なる名稱を與へ得る譯であつて、ジョンソン Johnson, D. W. は次ぎの四つに大別してゐる。

(1) 濱 Shore 又は干潮水面から満潮水面の

稍上方までの間、普通は水面上にあるが嵐の時には海水が來るといふ處までの間をいふ。これは極めて普通の區分であつて、歐米に於ては古くからこの意味で用ひられてゐる。濱は更に、潮の満干によりて、日々水面下に沒したり、又は水面上にあらはれたりする區域、即ち(イ)前濱 Foreshore と、平常は水面上にあるが大嵐の際には海水が達する線までの區域、即ち(ロ)奥濱 Backshore との二つに分つ。

(2) 海岸 Coast とは廣義では濱から陸に向ふある廣さを有する地域であつて、其の範圍は稍不確實に用ひられるが、狹義では海に向つて傾斜が急となつて、海岸斷崖をなす部分に用ひられる。海岸と濱との境界をなす線を海岸線 Coastal line といふ。故に海岸線は常に水面以上



海陸境界地帯の名稱に就いて

にあるのである。而して干潮時の海面と陸地との境界線は干潮汀線 Low tide Shoreline 満潮時の線は満潮汀線 High tide Shoreline と稱し、單に汀線 Shoreline と稱する時は干潮汀線を指すのである。

(二) 磯 Shoreface とは干潮汀線から海に向つて存在する狭い區域であつて、常に海水に蔽はれ、波のために砂礫は移動し、礁 Reef 嘴 Spit 洲 Bar 其他種々の形をつくつて、海岸地形の研究者に興味ある區域である。

(四) 遠磯 Offshore とは磯より更に海に向へる部分で、磯の先端とは傾斜の急なる階段をもつて境するのを常とし、緩傾斜を以て海棚の先端まで續くのである。

三、海蝕による形 以上の各區域に行はれる海蝕による形は種々あれど、大別して次の三となし得るのである。海岸と濱と相接する部分は (イ) 波成斷崖 Wave-cut cliff と稱し、低き海岸平野とか、砂丘とかによつて其の規模は異るけれど、數百尺にも達する斷崖をなすこともある若き海岸には其の崖下に截込 Notch をつくることがある。波成斷崖の前方、即ち、濱の全部及磯の一部は (ロ) 波成臺 Wave-cut beach と稱し、通常、海岸に近づくによつて傾斜を増し、遠ざかるにつれて減する。波成臺は隆起海岸に於ては波成段丘 Wave-cut terrace となるのである。波成臺の前方は (ハ) 海蝕臺地 Abrasion platform と稱し、極めて平坦な表面となる。

四、堆積による形 波が浸蝕した物質は、濱磯、遠磯に堆積して各種の地形をつくるが、その主要な堆積物の名稱は、濱や磯に堆積するものには、渚 Beach といひ、大暴風のために渚の上方に砂の段丘が生成するときには之を奥濱段丘 Backshore terrace と稱し、渚の前端は段階

をなして深度を増すのが常で、之を前磯段丘 Shelf terrace と稱する。この段丘は嵐のためには生滅移動するのが常である。海蝕臺地上には稍薄き砂又は生物の遺骸などの堆積をつくるが之を表積層 Vencer といふ。表積層の前方は深度大となり、比較的に靜穩なる堆積が行はれ極めて緩傾斜を保ちつゝ外洋に向ひ、その末端は急斜して深海に下る部分があつて、之を海底段丘 Continental terrace と稱し、これが堆積せる盤面を海棚 Continental Shelf と言ふのである。海棚は約二百米の深度を有する部分であつて、海岸より海棚に至る間の地帯は海と人類との關係交渉の最も大なる區域である。

## 一時的港市に就て

西 龜 正 夫

五、結論、若し陸塊が長へに安定に存在するならば、間斷なき海蝕作用は全陸塊を浸蝕し盡して之を海蝕臺地となし終はり、従つて海岸發達の最後のステーチに於ては上述の諸種の海岸地形は全く消滅し海蝕臺地のみが廣く發達してくる。緩慢なる隆起作用が行はれるときは單調なる臺地は漸次に陸地として現出し、こゝに海蝕進平原 Marine Penepiane を形成する。準平原の成因につき古き英國流の學者が海蝕を重視したのもこの點にあるのであつて、土地の隆起につれて河流は漸次に若き谷を浸蝕しつゝ第二の輪廻に入る。而して米國流の學者は河蝕の更に偉大なるを認めてゐるのである。(完)

海岸に於ける水陸交通の結節點として發達する港市は、其發生が漸次的で生命の比較的長い

のを普通とするが、又時としては突然的に發生若くは衰滅する事もある。而して突然的に發生